



もしもの時に命を救う「スマートフォンの自動緊急通報機能」について

突然の事故や急病で、自分自身が動けない、あるいは通常の操作による119番通報ができない。そんな緊急事態に備え、スマートフォンには衝突事故を検出する機能や、電源ボタン等を操作すると119番通報を発信できる機能が搭載されている機種がありますので、緊急時に活用できるか把握しておいてください。

【衝突事故検知の場合】

スマホが激しい衝突を検出すると、機種によっては警告音と画面上に警告が表示されます。一定時間操作がない場合119番に発信し、音声メッセージによる自動通報が行われ位置情報も共有されます。



【ボタン等の操作の場合】

電源ボタンを5回押すなど、簡易的な操作によって、119番通報が発信されます。（機種によって操作方法等に違いがありますので注意してください。）



～ご注意ください～ 誤出勤防止のために

自動通報は安心な機能ですが、誤って通報してしまう「誤発信」も増えています。

会話が行なえずに通話が切断された場合は、折り返し電話により状況確認を行っています。確認に時間を要することもあるので、以下の対応をお願いします。

【誤発信に気が付いた場合】

救急車などが必要ないのに119番が発信されてしまった場合、電話を切らずに消防職員に「間違いでした、救急車・消防車は必要ありません」と伝えてください。

【折り返し電話があったときは】

通話中に慌てて電話を切ってしまったも、消防から非通知または固定電話の番号で折り返し電話がありますので、必ず電話に出て救急車や消防車が必要かどうかを伝えてください。



幼年消防クラブ 『正しい花火の遊び方』

町内の各保育所において、7月8日からの3日間で幼年消防クラブの活動を行いました。夏を迎えて花火を楽しむことが増えてくるため、正しい花火の遊び方や、使用時の注意点について紙芝居や防火DVDを見て学びました。

その後は屋外で、訓練用の水消火器の取り扱いを体験し、園児のみんなは、楽しみながら消火の手順を学びました。



岩城保育所 7/8（水）



生名保育所 7/9（木）



弓削保育所 7/10（金）

令和8年6月出動件数

地区	弓削	生名	岩城	魚島	その他	合計	R8累計
火災	0	0	0	0	0	0	0
救急	19	9	10	1	0	39	204

(令和8年6月30日現在)

【上島町消防署】 ☎ 77-4118
【上島町消防本部消防防災課】 ☎ 77-3166

共に守ろう、大切な人とふるさとを
消防団員**絶賛**募集中！

1 マルドリ栽培による灌水制限試験

平成の終わりが数年間、国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 西日本農業研究センターとの共同プロジェクトで、マルドリ方式によるかんきつ栽培の実証試験を行いました。マルドリ

2 岩城駐在での試験の概要

1列45mに15×18本植栽された甘平が3列あり、周年マルチ（巻上げによる開閉可）＋点滴チューブ（1孔あたり1時間で1リットルの水が滴下する孔が30センチ間隔で設定されたポリエチレンチューブ）のマルドリ施設を平成28年に敷設しました。花崗岩土壌では灌水1回あたり23分が上限（それ以上流すと根域下に流下して灌水が無駄になる）で、水源の都合上1日に2回まで灌水ができます。

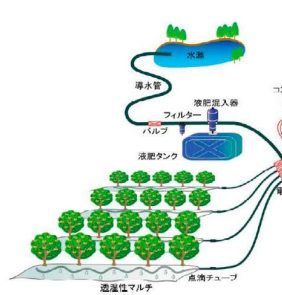


図1 マルドリ方式の概要（原図 西日本農研センター）

方式とは土壌をマルチ被覆（マルドリのマルチ）して降雨を遮断し、あわせてマルチの下に点滴チューブを敷設、点滴灌水（マルドリのドリ・ドリップⅡ点滴灌水）を行い、時に希釈した液肥を流すことで、施肥も自動化してしまおうというものの（図1）。しまなみ指導班岩城駐在では、甘平をマルドリ栽培することで裂果軽減を図れないか、という課題をいただいていた。

表1 灌水・施肥量の設定

	春肥	夏肥 (1)		夏肥 (2)		かん水量削減		秋肥
期 間	3/10 ～4/5	4/6 ～5/15	5/16 ～6/5	6/6 ～7/4	7/5 ～7/21	7/22 ～8/20	9/1 ～11/11	11/11 ～11/30
液肥（チッ素：150ppm）	○	○	○	○	○	○	○	○
慣行区（灌水量100%）	16分 ×回数（1回あたり）	16分 ×2回	16分 ×2回	23分 ×2回	23分 ×2回	23分 ×2回	23分 ×2回	16分 ×2回
節水区1（灌水量67%）	16分 ×2回	16分 ×2回	16分 ×2回	23分 ×2回	23分 ×2回	23分 ×2回	16分 ×2回	16分 ×2回
節水区2（灌水量50%）	16分 ×回数（1回あたり）	16分 ×2回	16分 ×2回	23分 ×2回	23分 ×2回	23分 ×2回	12分 ×2回	16分 ×2回

初秋肥を7月中旬に前倒し施用
・初秋季のかん水量を夏季の67%、50%に抑制

そこで令和元年、春季から開花終了までの灌水時間16分×2回、果実肥大が始まり最初の縦割れが発生する8月下旬まで仕様上の最大量・23分×2回の灌水としました。横割れが始まる9月以降は、3列をそれぞれ灌水時間12分×2回（灌水量50%）の列、16分×2回（灌水量23分×2回（灌水量100%）の列とする計画（表1）で、9月1日から1回の灌水量を減らしました。またそれぞれの列に図2のような簡易土壌水分計を設置し土壌中の水分状態を監視しました。

土壌中の水分量をモニターするのはいろいろな方式があり、この試験で用いたのは最も原始的なものです。装置の先に水が浸透しや

すいポ

ースカップ（素焼き素材の丸棒）があり、装置本体は1mの透明塩ビ製チューブのポールで中に水を満たし、上部をシリコン栓で密閉しています。

このポールを土壌中に突き刺し土壌中（図2の装置では地下20センチ付近）の水が少なくなると、先端のポラスカップから水が染み出しポールの液面が下がります。すると最上部のシリコン栓との間に空隙ができ、こ



図2 簡易土壌水分計の概要と設置状況（原図：西日本農研センター）